



NNA JAPAN CO., LTD.

〒 105-7209 東京都港区東新橋 1 丁目 7 番 1 号 汐留メディアタワー 9 階
Tel : 81-3-6218-4330 Fax : 81-3-6218-4337 E-mail : sales_vn@nna.asia

KDN PP 11802/03/2012(029010) MDDI(P) 049/03/2025

カカオ農園の炭素排出を削減 尾道のトロムソ、バイオ炭を製造

木の実やもみ殻などを炭化した「バイオ炭」の製造装置などを手がけるトロムソ（広島県尾道市）が、ベトナムでカカオ殻などをバイオ炭に加工して農地の土壌改良に利用するプロジェクトに力を入れている。バイオ炭は土中に長期間埋めると大気中の二酸化炭素（CO₂）の削減につながる効果がある。トロムソは 7 月までに 30 台（15 式）の製造装置をカカオ農園に導入し、農家の所得・生産性向上や循環型農業の推進、温室効果ガス排出削減を狙う。



チョンドウック・カカオとの締結の様子。右から 5 人目が上杉社長（トロムソ提供）

トロムソは 1 月 27 日、地場カカオ生産大手チョンドウック・カカオと、カカオ殻を原料とするバイオ炭生産プロジェクトに関する協力協定を締結した。

トロムソは南部ドンナイ省のカカオ農園から回収した殻を自社の炭化装置でバイオ炭に転換する。バイオ炭

は土壌改良に活用し、化学肥料の使用量削減を図る。炭化装置の排熱をカカオ豆の乾燥に利用することで、化石燃料の使用抑制や製造コスト削減、生産効率の向上も目指す。

土中に投入されたバイオ炭は微生物に分解されず炭素のまま地中に固定化するため、大気中の CO₂ を削減する新たな手法として注目されている。トロムソは CO₂ 削減効果を検証し、カーボンクレジット化や、排出削減成果を日本と現地国で分け合う「二国間クレジット制度（JCM）」の活用についても調査を進める。

ドンナイ省はベトナム有数のカカオ産地で、生産量の拡大に伴い、廃棄されるカカオ殻の処理が課題となっている。カカオ殻は、通常は農園内で廃棄されるため回収が難しいが、殻ごとカカオを買い取るチョンドウックと連携することで、回収コストをかけずに年間約 7,000 トン規模を安定的に確保できる体制を構築した。

トロムソの上杉正章社長は NNA にカカオ殻を実証

NEWS HEADLINES

【農水】カカオ農園の炭素排出を削減	1	【建設】クアンガイ省、サンGが6.7兆ドン都市開発	8
【金融】円が165ドン台、1年ぶり安値水準	3	【IT】中国タイヤ昊華、南部に4億ドル追加投資	8
【製造】進出 アルファシータ、南部でDJ機器生産	3	【農水】30兆ドンのハイテク畜産場建設、ドンナイ省	8
【サービス】進出 チアダンス教室 Gravis、ベトナム進出	4	【農水】HAGL、25年は売上高と利益が過去最高	9
【運輸】エアロネクスト、ドローン配送の事業化検討	4	【媒体】映画館CGVが過去最高益、国内作品けん引	9
【媒体】東京ガールズコレクション、ベトナム初上陸	5	【IT】生成AI「仕事に毎日利用」38% = PwC	9
【経済】南北高速鉄道は国内企業が投資を、政府方針	5	その他アジア情報	
【運輸】南北高速鉄道、北部住民が路線見直し要請	6	【経済】〔アジア人事〕東京応化工業ほか	10
【運輸】メトロ1号線の新空港延伸、ドンナイが主管	6	特集	
【農水】ベトナム製合板に反補助金税、米が暫定結論	6	【アジアで会う】吉田憲司さん JNTOシンガポール事務所長	11
【建設】ホアビン建設が74%減益、社会保険未納付も	7	その他	
【製造】韓国造船HD現代、中部で投資認可を取得	7	マーケット情報 商品市況・為替・株式	12
【IT】UAE企業、データセンター開発に20億ドル	7		

対象に選んだ背景を「農業残渣（ざんさ）であれば何でも良いわけではない」と説明する。ベトナムではコーヒー殻などが燃料として使われている例もあるが、「既にエネルギー用途などで利用されている残渣を原料にすると、代替として化石燃料の使用を招き、温室効果ガス削減の実効性が薄れる恐れがある」と指摘。利用されずに廃棄されていたカカオ殻であれば、より確実なCO₂の削減を見込める。



ドンナイ省農業・環境局によると、省内のカカオ栽培面積は約 750 ヘクタール、生産量は約 1 万 9,800 トン。2030 年には 1,100 ヘクタール、2 万 9,100 トンまで拡大する計画だ。省人民委員会はカカオ殻が有効活用できれば農家の所得向上や、農業分野での日越企業の連携強化につ

ながると期待する。



バイオ炭の製造装置（トロムソ提供）

王子HDと協力も

トロムソは、カカオ殻以外からのバイオ炭の生産に向けて他の植物の栽培試験もベトナムで実施している。中部では野菜類やコーヒー、南部では水稻を対象に検証を進めている。

林業分野では、王子ホールディングス（HD）と昨年、中部ザーライ省（旧ビンディン省）のアカシア植林

地で、これまで未利用だった樹皮を原料とするバイオ炭を活用した土中でのCO₂固定化の実証試験を開始した。

トロムソが製造したバイオ炭を、王子HD傘下の植林会社が保有するアカシア林に投入し、土壌改良効果や樹木の成長への影響、炭素固定量を検証している。中部ラムドン省では廃棄されたドリアン殻を原料とするバイオ炭生産プロジェクトを計画している。3月には地場企業と協力協定を締結する予定だ。

上杉氏によると、7月までに30台のバイオ炭製造装置をベトナムで設置する予定だ。1台2,000万円と競合他社に比べてコスト競争力に優れるものの、ベトナムの農家にとっては高額だ。ドンナイ省のプロジェクトは、経済産業省の「グローバルサウス未来共創事業」実証プロジェクトの一環として、経産省の補助金を受けて実施する。

上杉氏は「製造装置の提供に加え、バイオ炭の使用方法やカーボンクレジット創出効果の検証を含む営農指導までワンストップで支援する」と強調。装置の販売後も現場に寄り添い、環境保全と経済性の両立を実現する意気込みを示した。



インタビューに答える上杉社長＝2日、ホーチミン市

<プロフィール>

トロムソ：1994年創業。もみ殻を圧縮成形して固形燃料として活用する装置の開発・製造を祖業とする。2017年に上杉氏が社長に就任。以降は、未利用の残渣をバイオ炭として再資源化し、農業生産性の向上や化学肥料使用量の削減につなげる事業へと領域を拡大した。現在は、2031年までの新規株式公開（IPO）を視野に、事業基盤の強化を進めている。